



天女悲しや

ダイエツトなき
いまして、空か
ら落ちてしまふの
ではないかな。透
かし彫りの天女さ
まを見上げたのは、
平成十四年、午年
の春、逆井の観音
寺・観音堂です。
厨子の中の十一面
観音さまを拝ませ
ていただき、次の
午年、平成二十六
年にならないと拝
めぬ秘仏なのを知
りました。せめて
天女さまだけ、記
憶の底から出てい
ただき、天女にま
つわる話を。



終いよけれど、災難の天女たち

三保の松原で羽衣を見つけた漁師は
羽衣を返さず、天女はやむなく漁師の
妻になります。その後、羽衣を探し出
し天に帰っています。よかったねえ。
丹後の比治の里の山頂に、湧き水が
あり、天女が八人、水浴びをしていた。
ある老夫婦が一人の羽衣を隠した。天
女は「身は水に隠して、独りはじをり
き」。老夫婦が、うちの娘になつてく
れといい、十年余りを一緒に過ごした。
「天女、善く酒を醸（か）み為りき」
天女は酒を造った。一杯飲めば病氣
は治り、これで老夫婦は大金持ちにな
る。ところが老夫婦は、お前はうちの
娘ではない、出て行け！ と言ひ出す。
天女は嘆き、空を見上げ、
天の空ふりさけ見れば霞立ち
家路まどひて行方知らずも
と歌って、あちこち放浪し、奈具の村
に落ち着いた。天女は、ここの奈具社
に祀られています、のちに伊勢神宮
の外宮の祭神、豊宇気毘売神（とよう
けひめのかみ）になっています。

外宮の祭神も天女だった

逆井・観音寺の観音堂

なぜ、**天女悲しや**なのか、そ
の前に、天女をお借りした観音
寺のことです。観音寺は文字通
りならば、ご本尊は観音様だと
思われますが、不動明王です。
本堂を覗くと、憤怒の不動様に
にらまれます。
五月の連休には、東葛印旛大
師組合の69番札所になっている
送り大師でにぎわいますが、観
音堂も、下総三十三ヶ所観音の
23番札所でした。現在は行われ
ていないようです。
さて、悲しき天女の話です。
和銅六年（七一三年）、これは
「古事記」ができた翌年、官命
で各地の「風土記」が書かれま
した。天女の羽衣伝説が出てき
ますが、悲しい話ばかりです。